

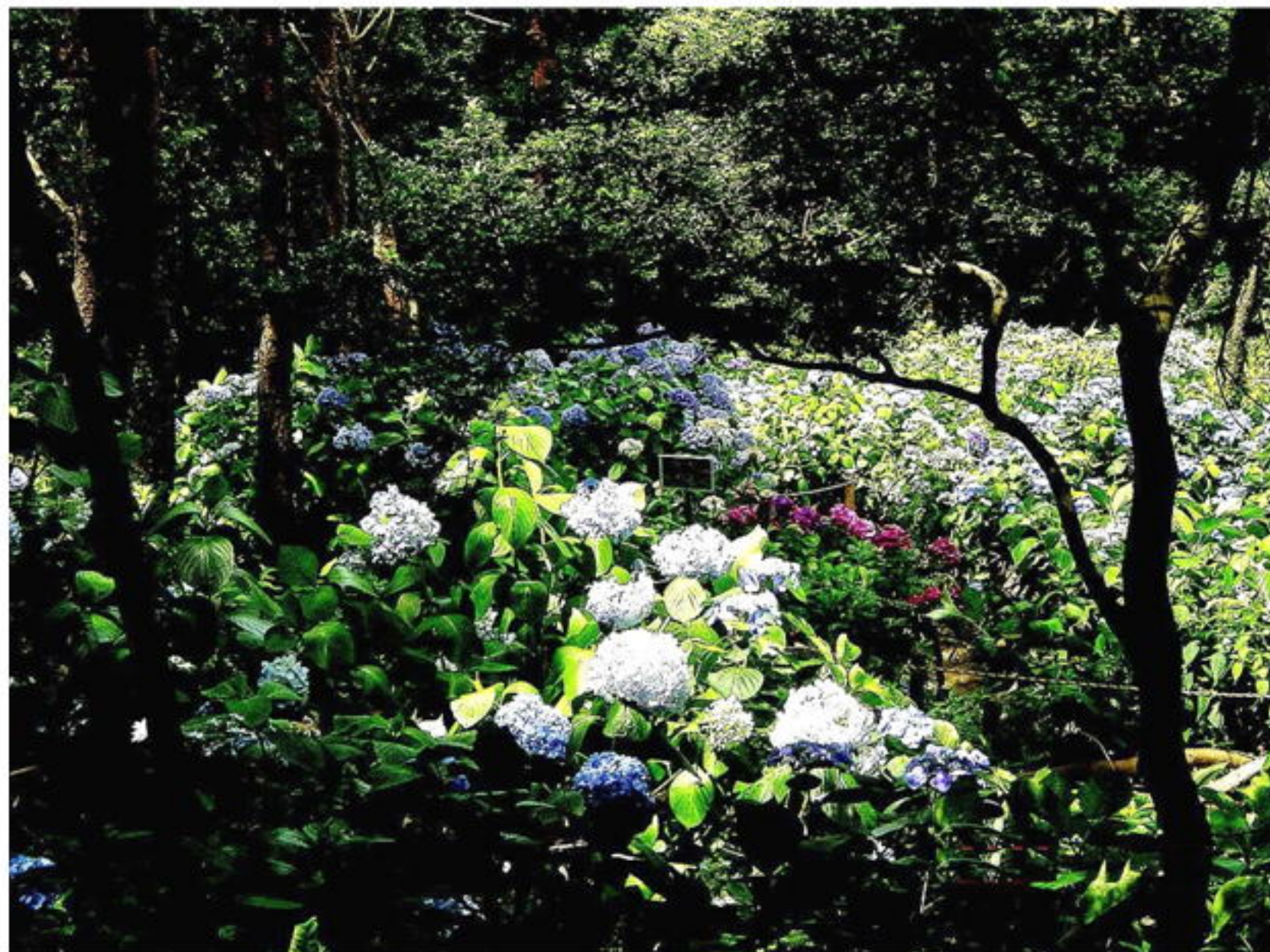
東名病院ホームページアドレス・Eメールアドレス

<http://www.med-junseikai.or.jp/tomei/index.html>

e-mail [tomei-hosp@med-junseikai.or.jp](mailto:tomei-hosp@med-junseikai.or.jp)

東名病院発行／〒480-1153愛知県愛知郡長久手町作田一丁目1110

T E L (0561)62-7511 (代) F A X (0561)62-2773



紫陽花 三ヶ根山

例年になく寒さが長く続いた感じでしたが、桜の季節もすぎ、暖かくなってきました。皆様お変わりありませんか。

高齢者に対する医療の変更が4月から施行され、被保険者の方々の負担が増大している結果になっています。病院としても医療費の改正で、私どもの様な小病院が存続できるかどうか全く不安がぬぐえません。日本の医療制度は、効率のよい医療が行われ、成果も上がってきましたが、総医療費の縮小との名目で、保険診療の削減が行われ、結果として皆様個人の負担が増加するばかりです。米国における自由診療が医療費を低下させるとの意見などが言われていますが、総合的に見ると日本の医療費は決して高くなく、米国では医療の難民が数多く見られると報告されています。

当院では本年4月から、名古屋大学医学部消化器外科の、大変経験豊かで、腕のたつ横山先生が、非常勤ではありますが、定期的に勤務して頂けることになりました。消化器各疾患の治療が発展することと思います。

今後とも効率の良い、不可欠の治療を続けることを目標に、親切・親身・信頼をモットーとしていきたいと思っています。

院長 村瀬 允也



# 多汗症

呼吸器外科 吉岡 洋

人は緊張すると汗をかきます。試験や面接の時、またテレビを見ていて緊張する場面などで手や脇に汗をかく経験は誰にもあります。これを緊張性発汗といい、暑いときにかく汗（温熱発汗といいます）と区別しています。緊張性発汗の量が通常より多い場合、仕事や学業時には日常生活にまで支障を来すことがあります。これは局所多汗症の一種で多汗の最も多いのは掌と足底であるため掌蹠多汗症といわれ、他に脇・顔の多汗がみられます。複数箇所（例えば掌と脇の両方など）の多汗症も珍しくありません。程度にもよりますが100人に2～3人の頻度で見られるという報告もあり決して珍しい病態ではありません。青年期に多く、汗腺等の解剖学的異常はありません。症状の強い方では握り拳を作ると、汗が滴になってしたり落ちます。精神的苦痛が強くなる方が多く、精神科などに通院される方もあります。

原因ははっきりしていませんが、胸部の交感神経という自律神経の一種が関係していることがわかっています。治療として塩化アルミニウム塗布に代表される外用療法、抗コリン剤内服による薬剤療法、水道水イオントフォーシス、ボツリヌス毒素A皮内注射、手術療法（胸部交感神経遮断術）などが行われていますが、それぞれ利点・欠点があります。外用療法は簡便ですが効果の個人差が大きく、薬剤療法は効果の割に副作用が多いのが問題です。イオントフォーシスは効果のある治療法ですが頻回な通院を要し、ボツリヌス毒素は高価で手技がまだ確立されていません。安定剤などの薬物療法を用いられることも多いのですが、効果はあまり期待できません。

現在最も効果が期待できる治療法は、胸部交感神経遮断術という手術療法です。発汗に関係していると思われる交感神経を遮断することで発汗を止める治療法です。この方法による手掌多汗の治療効果はほぼ100%で、治療直後は大変喜ばれます。一方問題点としてほぼ全員に代償性発汗が生じます。これは体幹（胸・腹・背中・大腿部など）に1日中大量の汗をかき非常に苦痛を伴います。また手が乾きすぎて、いわゆるカサカサ肌になり、不快感を訴えるようになる方も少なからずいます。

我々はこれら副作用が無視できないほどの不快を生じていることより、従来の手術方法を見直し、平成15年4月より遮断部を工夫した胸腔鏡下胸部交感神経遮断術に術式を変更しました。平成18年2月まで48例に同術式を行い手掌に対する効果は95%で代償性発汗は6.3%でした。平成18年3月からは更に改良を加え、術中血流・発汗量の測定を解析しながら神経遮断部を決めるオーダーメイド手術を開始し、平成20年2月現在までの80例で手掌に対する効果は100%、代償性発汗は一例も起きておりません。ただ足底発汗は全ての症例で改善しませんでした。また手掌の乾きすぎは現在のところ0%です。発汗に対する効果ですが、従来の方法に比較すると発汗量は有る程度残っており、からからになることを期待していた患者様には不満かもしれません。しかし術後発汗テストを行うと正常な方の発汗量と同じであり、全く乾いてしまうことの方が異常であるということがわかってきました。また当院の特徴として山本先生（兼平・山本クリニック）の開発された器具を使用しており、傷を3mm程度1箇所腋窩にあけるのみで、美容上もすぐれています（写真参照）。



当院では引き続き本方法で治療を続けますが、問題点として手術の効果がいつまで続くかわからない点があります。また発汗の程度を客観的に調べた報告はなく、今後の大きな課題となっています。

この問題点解決のために、東名病院・愛知医科大学皮膚科・愛知医科大学生理学教室・名古屋第二赤十字病院呼吸器外科が共同で研究を進めています。

治療を受けられる皆様には、術前・術後に検査を受けていただき、発汗状態を調べさせていただきます。ご協力宜しくお願い致します。



手術は3mmの傷を腋窩に1箇所つけるだけで、跡はほとんど残りません。

# 健康診断について

臨床検査技師 中嶋 田恵子

## 身長

身長計の尺柱に肩をいからせず、両腕は手掌を内側にして体側に自然にたらし、足先を30～40度を開き、背、臀部および踵を尺柱につけて、膝を伸ばし、顎を引き、首を伸ばして、頭は傾けず正面を向いて立ちます。

(測定時刻の差異)

夕方より朝の方が1～2cm高いといわれています。これは朝起きた時は、直前まで平行に体になっていたため膝には体重が全くかかっていない。それに対し起きて立っているときは、自分の体重のほとんど、つまり膝から上の体重が膝関節にかかり身長が低くなるためです。

## 体重

裸体又は薄着で秤台の中央に静かに立ち、体を静止させます。

裸体で測定するのが原則ですが、衣類を着たまま測定した場合には、衣類の重さを測定値から差し引きします。

測定の前約1時間は飲食されないほうがいいでしょう。又、前日の夜に多量の飲食は避けましょう。

## BMI (ボディ・マス・インデックス)

BMI (体格指数)はWHO (世界保健機構)でも採用されている測定法で肥満の程度を知る方法です。

$BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$  で算出します。

自分の体重管理の為に、この指数を算出される場合に注意していただくのは、身長の単位がメートルであることです。

例えば、身長170cmで体重70kgの男性では、

$70 \div 1.70 \div 1.70$  で24.2となります。(小数点以下1桁)

25以上の場合を肥満と判定します。

## 腹囲

両足をそろえ、両腕は体の横に自然に下げて、お腹に力が入らないようにしていただきます。

軽く息をはいた時に、臍レベルで測定します。

脂肪の蓄積が著明で臍が通常的位置からずれている場合は肋骨下縁(肋骨の下端)と前上腸骨棘の midpoint の高さで測定します。

※故意にお腹を凹ませないようにしましょう

男性85cm以上、女性90cm以上の場合を内臓脂肪蓄積と判定します。

(これは女性において多く存在する皮下脂肪を考慮しての判定となっています。)

## 血圧

心臓が収縮して血液を動脈に送り出すときの圧力(収縮期血圧=上の血圧)と心臓がもとにもどって血液をためる間の圧力(拡張期血圧=下の血圧)を測定します。

◎注意すること

洋服の袖をまくり上げた時に上腕部をしめつけた状態はさけましょう。

喫煙は血管が収縮して血圧を上げます、喫煙直後の測定はさけましょう。

膀胱に尿が溜まって我慢している状態は血圧が上がりますので、さけましょう。



## 尿検査

腎臓でつくられた尿は尿管を通過して膀胱に入り、ある程度たまると尿道を経て体外に排出されます。ところが、腎臓をはじめ、体のどこかに異常があると、血液によって全身の組織から運ばれてきた体の不要物が排泄されなかったり、排泄されてはならないものが混じってきたりします。

このような異常を探るのが尿検査です。

### ◎注意すること

#### 運動

激しい運動により、腎臓に負担が加わり一時的に腎臓機能が低下し、尿中に蛋白が出現する場合があります。また、激しい運動により、インスリンが不足し、肝臓内での糖の消費が低下することで血糖値が上昇したり、腎機能を一時的に低下させることで、糖排泄閾値が下がり尿中に糖が出現する場合があります。

#### 発熱

風邪などで38℃以上の発熱があると尿中に蛋白が出現する場合があります。

#### 尿の採取方法

基本的には中間尿（排泄された最初の尿や最後の尿を用いず、排泄途中の尿を用いるもの）を用いるべきとありますが、その後細菌検査をするわけではないのであまり神経質になる必要はありません。

#### サプリメント・スポーツ飲料で多量のアスコルビン酸を摂取されている方

アスコルビン酸は糖の陽性反応を隠匿し、偽陰性化させる薬剤です。少なくとも24時間以内は摂取しないようにしてください。

※異常値になることを恐れて、尿に水を混ぜる方がいますが、このような行為は絶対にやめましょう。

## 血液検査

血液は、心臓からのポンプ作用によって、体のすみずみまで酸素や栄養分を運ぶとともに、二酸化炭素や老廃物を運び出す働きをしています。その為、血液は常に全身の臓器や組織の健康状態を反映しており、体のどこかに異常があると、血液の成分にその影響が現れます。その異常をさぐるのが血液検査です。

### ◎注意する事

食事は健診前10時間以上は摂取せず、水だけにしましょう。

（せっかく10時間以上前に食事をすませても過食・アルコール摂取は検査に影響します。）

TG（中性脂肪）→食後ただちに増加するのではなく、徐々に増加していき2～6時間でピークに達します。

グルコース（血糖）→食事の摂取により上昇します。一般的に穀物やパンに含まれる糖分は、体内で早くブドウ糖にかわり、グルコースの値を上昇させます。

γ-GTP→アルコールに敏感に反応します。ふだん飲まない人でも、検査の前日にたまたま飲酒しただけで、上昇する場合があります。気をつけましょう。

#### 運動

GO T→心筋・肝臓・骨格筋などに多く存在し、激しい運動をした場合、筋肉内のGO Tが血内に遊出し、上昇する場合があります。